

リージョナルステート研究会 平成24年度総会および講演会

1. はじめに

リージョナルステート研究会(RS研究会)の「平成24年度 総会および講演会」が、2013年1月18日(金)札幌エルプラザで開催されました。



開催状況

開催場所：札幌エルプラザ2階 環境研修室1・2
開催時間：18：30～20：00
参加人数：17人

総会は、滝澤幹事長(総監・建設)の司会により進められました。

以下に開催内容について報告します。

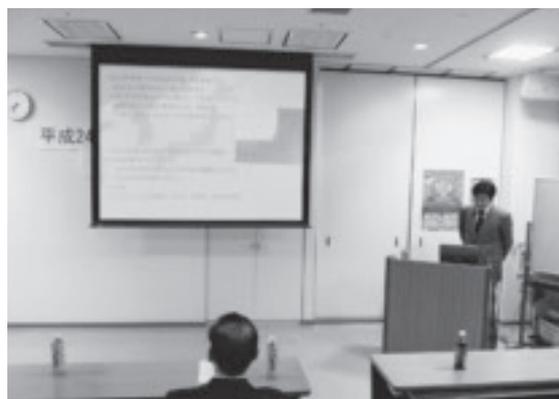
2. 総会(18：30～19：00)

開会に先駆けまして、リージョナルステート研究会武智代表(建設・上下水道)より開会の挨拶がありました。その中で、リージョナルステート研究会の活動目的である「北海道の自律と活性化」について若干ふれ、今回の総会及び講演会が一年間の研究会活動を振り返るとともに、次年度の活動へ繋げるステップアップの機会として頂ければと、開催の意義を述べました。

1)平成24年度活動報告・会計報告

報告は、リージョナルステート研究会、循環技術

システム研究分科会、地域主権分科会から発表され、承認を受けました。(図-1、2、3参照)



RS研究会および循環研：滝澤幹事長報告

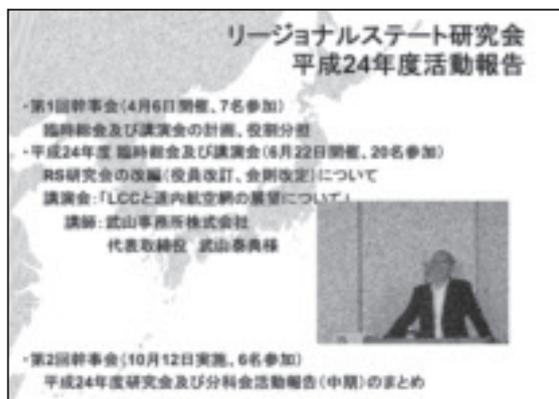


図-1-1. リージョナルステート研究会活動報告

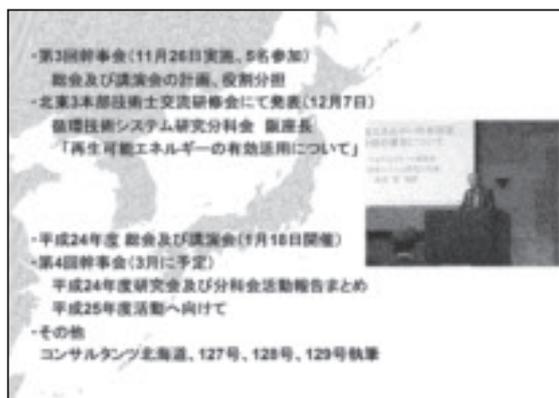


図-1-2. リージョナルステート研究会活動報告



図-2-1. 循環技術システム研究分科会活動報告



図-3-1. 地域主権分科会活動報告

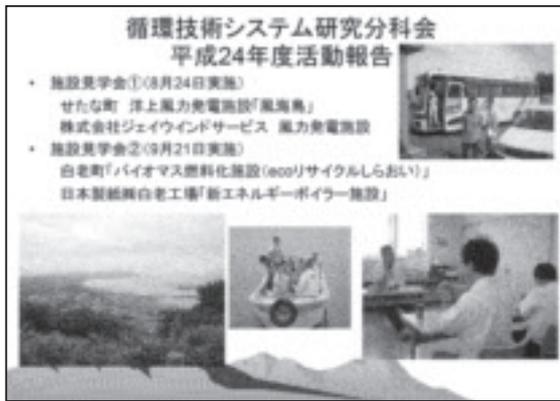


図-2-2. 循環技術システム研究分科会活動報告



図-3-2. 地域主権分科会活動報告

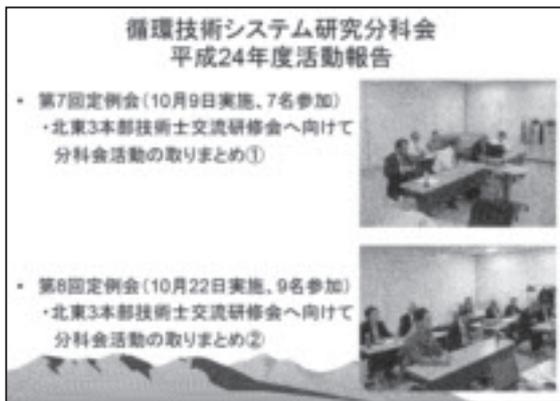


図-2-3. 循環技術システム研究分科会活動報告



地域主権分科会：武智座長報告

2)平成 25 年度活動計画

報告は、リージョナルステート研究会、循環技術システム研究分科会、地域主権分科会から提案されました。(図-4、5、6 参照)

循環技術システム研究分科会では、約 1 カ月毎の定例会の他に施設見学会(例年通り 2 回を予定)も計画しており、自然エネルギーに関する活動を取りまとめていく予定と報告がありました。

また、地域主権分科会では、次年度は新たなテーマとして「北海道の水資源について」を切り口に勉強することと報告がありました。

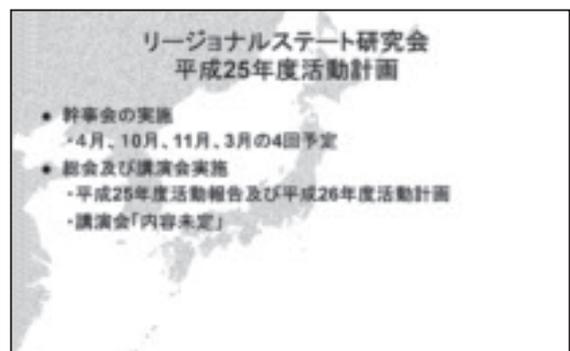


図-4. リージョナルステート研究会活動計画

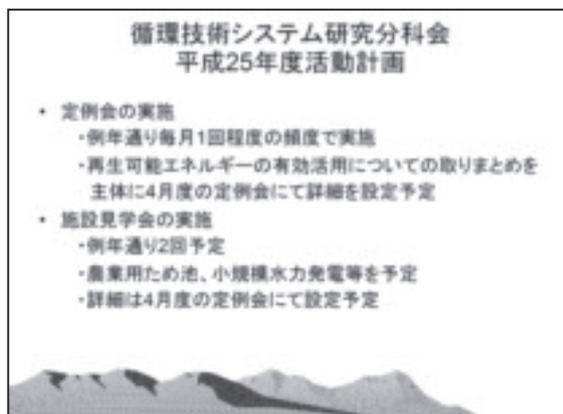


図-5. 循環技術システム研究分科会活動計画

新たなテーマ	
<ul style="list-style-type: none"> 水のブランド化が進み、水をペットボトルで買う行動が普通になっている一方で、道内各地域での人口減少から、水資源の余剰が見込まれる さらに、農業でも減反が進められる一方で、営農用水が整備されつつある…一体、水資源は不足しているのか、余っているのか、求められている質は変化しているのか 	<ul style="list-style-type: none"> 道内の水の競争力は高いと思われるが、そもそも水の味は違いがあるのか？ 水を売る行動＝ミネラルウォーターの製造と流通コストの実際はどうか？ 海外への水の輸送は荒唐無稽な話か？ 水資源の保護は見逃されてはいないか

図-6-1. 地域主権分科会活動計画

地域主権分科会 平成25年度活動計画
<ul style="list-style-type: none"> 定例会の実施 <ul style="list-style-type: none"> 例年通り毎月1回程度の頻度で実施 「北海道の水」をテーマに勉強会を開催予定 当面のテーマ <ul style="list-style-type: none"> 水資源から森へ エネルギーへ あるいは一次産業へ 人口減少時代における地域主権・地域自立の重要な要素足りないか <p style="text-align: center;">講師を探しています！</p>

図-6-2. 地域主権分科会活動計画

提案は賛成多数で承認され、総会は終了しました。

3. 講演会(19:00～20:00)

今回は、株式会社ドウデン(JR北海道グループ)代表取締役社長の小笠原 憲生氏(技術士:電気・電子部門)をお招きし、「レールが運ぶ北海道の未来～つなげよう!しずか号から新幹線へ～」と題して、ご講演を頂きました。

小笠原氏は、昭和52年に北海道大学大学院修士課程電気工学部をご卒業後、日本国有鉄道に入社、平成17年JR北海道取締役函館支社長を最後に退任され、平成23年から株式会社ドウデン代表取締

役としてご活躍されています。



小笠原技術士によるご講演

【講演概要】

ご講演は、自身の名前の由来(昭和27年5月3日の憲法記念日に生まれたことから、憲生さんと名付けられたそうです。)を紹介するところから始まり、鉄道の四方山話を含めてお話をされました。

□北海道の鉄道の歴史として、1880年(明治13年)に始めて鉄道ができた。(幌内～札幌～手宮間)

□北海道で最初に走った蒸気機関車は「義経号」次に2号:「弁慶号」、3号:「比羅夫号」、4号:「光圀号」、5号:「信廣号」、6号:「しづか号」と命名されたものであった。

□続いて、東京～大阪間の所要時間の推移から鉄道技術の発展について説明された。

・明治初期まで:籠で「6日」かかった。

・明治22年に蒸気機関車で「20時間5分」

・明治29年「17時間22分」

・明治45年「11時間55分」

・昭和5年「8時間20分」、昭和25年「8時間」

・昭和33年にビジネス特急「こだま」登場

・昭和39年「4時間」

・現在「2時間25分」Max270km/h、

東京～博多間「4時間50分」

□日本の新幹線の営業最高速度の紹介があった。

・東北 新幹線:300km/h

・上越 新幹線:275km/h

・長野 新幹線:260km/h

・東海道新幹線:270km/h

- ・山陽 新幹線：300km/h
- ・九州 新幹線：260km/h
- ・北海道新幹線の設計最高速度：260km/h
- 新幹線の高速化技術についてのご紹介
 - ・軽量化と防揺(乗り心地)、制御技術
 - ・空気抵抗および騒音を考慮した形状技術
 - ・超過遠心力を低減する車体傾斜制御技術
 - ・信号・軌道・き電系・車両・保守・旅客案内の最適化(トータルシステム)技術など
- 青函トンネル区間における「トレイン・オン・トレイン(車両輸送)方式」の採用について
- 北海道新幹線の新函館～札幌間について、主な調査をH18～H23に行い、H24.6.29に着工認可が下りたと報告された。
- ヨーロッパの高速鉄道(TGV)の乗車体験談
- DMV(デュアル・モード・ビークル)の紹介



会場の様子

閉会の辞は、リージョナルステート研究会 阪(総監・建設)副代表から、講師への謝辞と北海道新幹線に対する期待で締められました。



阪副代表 閉会挨拶

4. おわりに

北海道の自律と活性化を目指して活動するリージョナルステート研究会は、人口減少・高齢社会が加速する状況に加え、TPPの積極参加や原子力問題等により、社会が大きく変質しつつある今日、北海道の多様な経営資源を知り、新たな価値を見出し、次世代を牽引できる場にしたいと考えています。

また、異なるもの同士が互いに尊敬して高めあう場、自分の価値観に凝り固まることなく、多様な価値観を知る場、見つけ出す場でもあります。

激動する現代社会を目の当たりにして「自分の可能性を探ってみたい!、各面で活躍される方々のお話を聞いてみたい!、自身の?を自分の目で確かめたい!」とお考えの方は、いつでもメンバーになってください。是非お待ちしておりますので、以下のHPアドレスよりお申し込みください。

[<http://www.ipej-hokkaido.jp/regional/regional.htm>]

□2013年度(平成25年度)役員体制

- 代 表：武智 弘明(地域座長) (株)リブテック
- 副代表：阪 豊彦(循環座長) 伊藤組土建(株)
- 幹事長：滝澤 嘉史(循環幹事長) 伊藤組土建(株)
- 幹 事：佐藤 公彦(循環幹事) (株)ドーコン
- 幹 事：椎谷 悟(循環幹事) (株)明和工業
- 幹 事：椿 直樹(地域幹事) (株)北海道水工コンサルタント
- 幹 事：東海林 真也(地域幹事) (株)通電技術
- 幹 事：瀨瀬 摩美(地域委員) 帯広畜産大学
- 幹 事：相内 啓二(地域幹事長) (有)シープラン・データサービス

最後に、講演会開催にあたりご協力いただきました講師にお礼を申し上げ、ご報告といたします。

相 内 啓 二(あいうち けいじ)

技術士(建設/総合技術監理部門)

日本技術士会北海道本部
リージョナルステート研究会
地域主権分科会幹事長

